Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS　Vol. 7　2015.5.21

米国財団法人野口医学研究所 専務理事
特定非営利活動法人野口医学研究所 理事長 羽村 章

CONTENTS

■ご挨拶 …… p2
■第17回NIBC開催内容 …… p3
■医学交流活動 M3研修 …… p4
■健康博覧会2015出展報告 …… p5
■女子栄養大学 奨学金授与式 …… p6
■賛助会員のご紹介 …… p7
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内 …… p7

ご挨拶

野口記念インターナショナル画像診断クリニックとセカンドオピニオン

私の会社は健康ジュエリーの販売を行っています。販売促進の為に有力な健康関連団体の推奨を模索していた処、知人からの紹介で米国財団法人野口医学研究所の存在を知りました。その理念と活動内容に賛同し、又私の事業も少なからず社会貢献できるのではと思い、品質推奨を申請したのが野口との始まりです。

そして今から3年前に参与を委嘱され、「野口国際ビジネス交流会(NIBC：Noguchi International Business Conference)」に参加して幅広い分野の方々と出会うことができました。

さて、私の無二の親友の一人娘（現在44歳）が約10年前から舌癌に冒され苦しんでいました。その為、2年前の平成25年4月中旬に、地元の公立病院で手術と放射線治療を受ける予定になっていました。その直前、3月に開催されたNIBCで、野口記念インターナショナル画像診断クリニック理事長である佐藤俊彦先生とお話しをする機会があり、ご相談したところ、急遽、4月1日に、セカンドオピニオンの外来を受診することになりました。検査後に公立病院の予約をキャンセルし、佐藤先生の紹介で専門医の治療を受け、その後最終的に1年後の昨年（平成26年）4月中旬に、静岡県立がんセンターで舌の半分余りを切除しましたが、癌を完全に取り除くことに成功しました。1年余の辛い治療とリハビリにより、現在は会話もほとんど不自由なく、普通の美味しい食事をしています。もし佐藤先生のセカンドオピニオンを知らずに、予定の手術と放射線治療を受けていたら、会話は不自由で、唾液は出にくく、味覚のない生活に悩まされ、苦しんでいたことと思います。

今後もNIBCを更に発展させ、参加なさる方々に野口記念インターナショナル画像診断クリニックと佐藤先生の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。

米国財団法人野口医学研究所
参与会参与　　加藤 光雄

第17回NIBC開催内容報告

（NIBC：Noguchi International Business Conference）

2015年3月17日（木）　　於：野口医学研究所　9階会議室

新たな時代における日中ビジネス

内田総研-Group　董事長
内田 俊彦

現在の日本市場は既に飽和状態にありますが、中国には未だまだ巨大な市場が残っています。しかし、これまで日本人は「中国でモノを作る」ということを進出する主な理由としており、「中国でモノを売る」ということは考えていませんでした。ところが近年、中国人の人件費が高騰していることもあって、ようやく「中国でモノを売る」ということを考え始めるようになったのです。

一方、医療の分野では、中国からのメディカルツーリズムが増えています。これからは単なる「旅行」ではなく、「医療」中心であることが重要だと考えています。中国には日本で検診や治療を受けたいという患者さんが沢山いる為、中国人専用の病室を持つ病院を作ることができれば、患者さんを大量に日本に連れてくることも可能です。

中国でビジネスを成功させる為には、まずはベースとなる２店舗を立ち上げ、その２店舗を活性化させ、商標を取得してから、フランチャイズで広げていくという順序が良いでしょう。中国では商品が売れ出すと、その後すぐにニセモノが出回る為、いきなり全国区で展開するのではなく、小規模で始め、その間に商品の商標を抑えておくことが非常に重要となります。

中国とのメディカルツーリズムに対する取り組み

近い将来、中国は世界一のがん大国になると言われています。特に肺がんの死亡率はこの30年間に400%以上も上昇しました。しかし、現在の中国では、医療スタッフの技術不足や無症状のがん患者を診たことがない医師が多いことが問題となっています。

この様な現状に依り、中国からは高度な技術を持つ日本へ画像診断や健診、治療を依頼する例が増えています。医療滞在ビザの発給に依って、日本で検診や治療が受け易くなったこと、そして、日本の医療に信頼を寄せていることが大きな理由かと思います。
癌を予防する為には、画像診断、テロメスキャン®、予防の為の免疫療法が必要です。メディカルツーリズムにおいてもこの3つの柱を中心に行います。

未病のうちに見えないがんを発見するテロメスキャン®や、免疫力を上げるために予防的免疫療法を行い、検査画像を正確に診断できる医療機関で健診を行うことが大切です。そして、がん治療終了後は、10年体制でフォローアップしていくシステムが必要となります。

米国財団法人野口医学研究所 理事
野口記念インターナショナル画像診断クリニック 理事長
佐藤 俊彦

医学交流活動
-M3研修(Clinical Skills Program)報告-

2015年3月20日（金）～3月27日（金）

於:Thomas Jefferson University, Thomas Jefferson University Hospital

一般社団法人野口医学研究所の収益金の一部は、米国財団法人野口医学研究所を通じて、国際医学交流に使われています。3月20日から5日間に亘り、医学生を対象としたワークショップがフィラデルフィアで実施されましたので、概要と研修生の感想をご紹介します。

研修スケジュール

	Orientation Session Tour of Simulation Center at TJU Tour of Library Lecture : Clinical Nutrition Education to Residents
1日目	Internal Medicine Inpatient Rounds Emergency Medicine Rounds
2日目	Lecture : Interprofessional Education and Practice Lecture : Medical School in US Lecture : Chinatown Clinic
3日目	Shadows at Emergency Department
4日目	Lecture : Life of medical students / Matching process Lecture : Presentation by Dr. Joseph Gonnella
5日目	Outpatient Pediatrics Rounds Outpatient Family Medicine Rpunds Closing Ceremony

研修生のレポートより

■ アメリカの臨床実習で驚いたのは、ヒューマニズムです。患者さんに敬意を払うための教育がなされ、患者さんの権利に重きを置く様子は日本の実習ではなかなか見ることができません。医学生は、臨床実習の前にシュミレーション・ラボ等でベッドサイド・マナーをきちんと習います。もう一つ印象的な患者さんへの配慮として、コミュニケーションを非常に大切にして問診や回診をゆっくり丁寧に行います。様々な背景の患者さんがいる中で、患者さんの自己決定権を尊重するために丁寧な対話は重要な意味があると思いました。

聖マリアンナ医科大学　医学部６年　久保田隆文

■ 私は、心から尊敬する医師に出会うことができました。Dr. Lauは通常の診療や研究以外にボランティアでChinatown Clinicを行っている先生ですが、先生の一言一言から患者さんに対する思いやり、情熱が伝わってきました。純粋な心で本当に助けが必要な人に手を差し伸べること、それが医療の真髄なのだということを再認識しました。

東北大学　医学部4年　高橋陽子

研修を終え、修了証書を手にする研修生

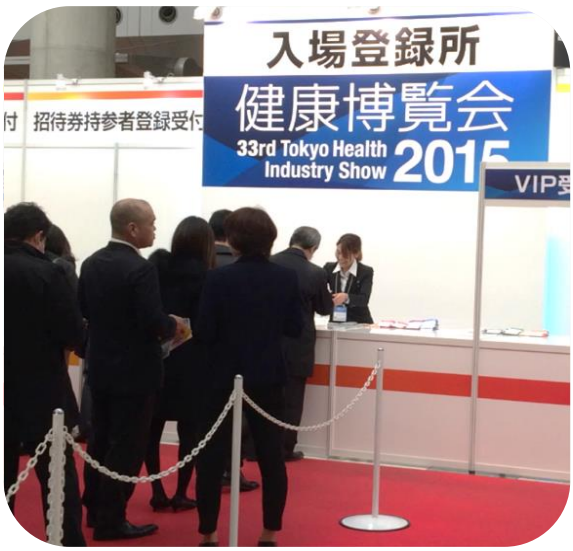
健康博覧会 2015

2015年3月11～13日　於：東京ビッグサイト

一般社団法人野口医学研究所は、3月中旬の3日間に亘り開催された、国内最大級の健康産業ビジネストレードショー『健康博覧会2015』に出展しました。

出展社数：570社
来場者数：38,641名

日本の健康産業関係者のみならず、
海外からも多くの方が来場されました。



野口英世博士の看板を高く掲げ、存在感をアピールしました。

品質推奨やゴールドコレクション等、社団野口の事業についてご説明しました。

看護師による医療相談コーナーを設け、カウンセリングを行いました。

『キダ』のイメージキャラクターである芹澤大介選手の写真を前面に出すことで、多くのお客様に注目して頂きました。

インバウンド市場の活性化を図るべく、新健康活力製品シリーズの新商品『納豆キナーゼ』『黒マカ』『鮫肝油Wプレミアム』をご紹介しました。

野口医学研究所ブースのご紹介

女子栄養大学に於ける

平成27年度 女子栄養大学大学院入学生奨励『浅野嘉久賞』授与式

平成27年4月8日（水）11：30～　女子栄養大学・坂戸校舎に於いて、第1回「浅野嘉久賞」授与式が行われました。「浅野嘉久賞」は、米国財団法人野口医学研究所創立者・名誉理事、一般社団法人野口医学研究所社員総代 浅野嘉久個人が、女子栄養大学 大学院修士課程に進学する優秀な人材に対し、研究の質の向上と高度専門職業人養成を目的として授与するものです。

第1回奨学金給付者として、大学院入学生の中から2名（保健学専攻 大原菜摘さん、栄養学専攻 松本梓さん）が選出され、浅野嘉久本人より給付決定通知が手渡されました。

女子栄養大学 香川芳子学長 他役員の方々、野口医学研究所の出席者と奨学金授与者

浅野嘉久と奨学金授与者
（保健学専攻 大原菜摘さん(右)、栄養学専攻 松本梓さん(左)）

賛助会員のご紹介

米国財団法人野口医学研究所は、国際医学交流の促進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。当財団の「賛助会員制度」は、多くの方々にこの活動へのご理解とご支援を承る役割を果たしています。今回は、株式会社日本ホップス様をご紹介致します。

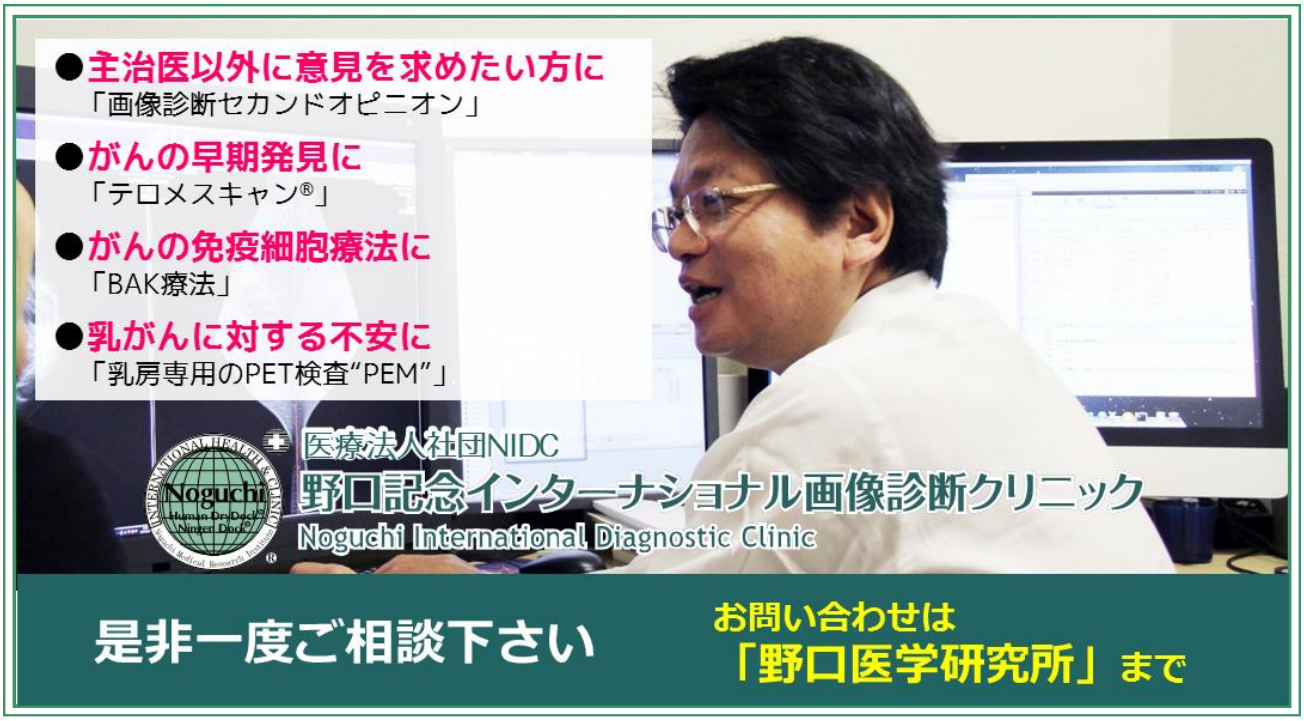
カルテ管理、医事環境の改善業務

内装設計・工事

家具・事務機器・医療機器販売コーディネート及び販売

日々変化する医療環境への対応は、豊富な経験と将来を見据えた知識と情報力が必要です。
日本ホップスは、カルテの TDF 管理を中心とした医事環境の改善から、家具のコーディネイト、内装工事や IT・医療機器のトータルシステムの提案・販売を行なっています。

株式会社日本ホップス®
営業本部東京支社
〒171-0042　東京都豊島区高松 1-10-2NH 西池袋ビル
TEL 03-3955-8211(代)　FAX 03-3955-8273
http://www.nihon-hotps.co.jp



NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 7

発行日　2015年5月21日
発行人　安東 恭助
発行所　米国財団法人野口医学研究所
編　集　〒105-0001　東京都港区虎ノ門1-22-13
電話　03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所 参与会